

プロジェクト終了報告書
山陰の肝移植再開プロジェクト！-若手医療者・外科医育成-

報告日： 2026年4月8日

実行者： 島根大学医学部 消化器・総合外科 日高 匡章

1. はじめに-寄付者のみなさまへの御礼-

この度は、私たちのプロジェクト「山陰の肝移植再開プロジェクト！-若手医療者・外科医育成-」に多大なるご支援をいただき、心より感謝申し上げます。おかげさまで、当初の目標を大きく上回るご支援をいただき、山陰地方における肝移植再開に向けた大きな一歩を踏み出すことができました。皆様お一人おひとりの温かい応援メッセージは、日々研鑽を積む若手医師やスタッフにとって、何よりの励みとなりました。ここにプロジェクトの成果を報告させていただきます。

2. プロジェクトの実施報告

- 2024年11月：クラウドファンディングプロジェクト始動。
- 2025年01月：プロジェクト目標金額達成。
- 2025年05月：金沢で開催された国際マイクロサージャリー学会に参加しました。

肝移植には、血管同士を繋ぎ合わせる「血管吻合」という高度な技術が不可欠です。しかし、一般的な消化器外科の手術でこの手技を行う機会は稀であり、若手医師が経験を積むことは容易ではありません。上記学会にて、動脈吻合のエキスパートから直接指導を受けられるハンズオンセミナーが開催され、当科の中村が参加いたしました。この貴重な経験は、今後の生体肝移植再開において大きな力となるはずです。



- **2025年8月：開創器の購入**

クラウドファンディングの目標の一つであった、手術器具（開創器：手術中に術野を広げ固定する器具）を無事購入させていただきました。この器具の導入により、より安全で精密な手術操作が可能となりました。肝移植手術はもちろんのこと、その他の高度な消化器外科手術においても非常に有効に活用されており、地域医療の質向上に大きく貢献しています。皆様の温かいご支援に、心より感謝申し上げます。



- **2025年12月：琉球大学にて肝移植応援依頼(日高)、研修(岸、麻酔科医)**

琉球大学より、生体肝移植の手術応援依頼が日高にあり、当科チームが現地での手術に参加いたしました。この貴重な機会を最大限に活かすべく、当科の岸および島根大学の麻酔科医も同行し、実践的な研修を実施いたしました。実際の移植現場における術中の流れや、細かな注意点を直接肌で感じながら学ぶことができ、山陰での再開に向けた体制整備において極めて有意義な経験となりました。



- **2025年10月：岡山大学での生体肝移植の見学(外科、麻酔科、手術室看護師)**

岡山大学病院にて実施された生体肝移植手術に、当院の医師および手術室看護師によるチームで実地研修に参加いたしました。医師だけでなく看護師も同行したことで、手術の全体的な流れはもとより、実際に使用する特殊な機材の管理や、一刻を争う緊急時のチーム対応など、現場のオペレーションを詳細に学ぶことができました。職種の垣根を越えて高いレベルの知見を共有できたことは、当院での

安全な移植医療再開に向けた大きな収穫となりました。



現在、肝移植再開に向けた学内の体制整備は完了し、島根県での再開に向けた「適応症例の慎重な選定段階」にあります。肝移植は高い治療効果が期待できる一方で、手術自体の難易度やリスクも非常に高い手技です。患者様に最善の治療を提供するためには、特に再開初回の症例に関しては、万全を期した慎重な検討が不可欠です。県内の医療機関からは多数のご相談をいただいておりますが、現時点での手術リスクが非常に高いと判断されるケースについては、国内の専門施設と密な情報共有を行い、最適な診療環境への橋渡しを行っています。実際の実施にはまだ至っておりませんが、最高水準の安全性を確保した上で再開できるよう、着実に準備を進めております。

3. 収支報告（寄付金の使途）

皆様からいただいた寄付金は、現在までに以下の通り大切に使用させていただきました。

項目	金額（円）	備考
高度医療機器購入費	2357806	手術器具、肝移植シミュレーション備品
医療スタッフの研修費	470030	国内の専門施設への派遣・出張費補助
残金	3821348	

残金の使途用途について

当初の予定よりも効率的に運用できたため、発生した残金（計 3821348 円）につきましては、肝移植再開に向けた必要経費（新規手術器具購入）及びに継続的な若手外科医の育成資金として、引き続き山陰の移植医療体制の維持・発展のために活用させていただきます。

4. リターンの対応状況

ご支援いただいた皆様へのリターンにつきまして、以下の通り進捗をご報告いたします。

当初の予定より対応が遅れており、申し訳ありません。企業ロゴ掲載、感謝状の贈呈に関しては区切りとなる移植再開時に予定しております(2026 年度中に施行できない場合は、再度報告と共に掲載)。今後も進行状況に関しては報告させていただきますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

- 感謝のメール・お手紙：発送済み
- HP へのお名前掲載：2026 年 4 月 8 日に HP に公開予定
- 企業ロゴの HP への掲載：移植再開時に謝辞と共に掲載を予定
- 活動報告書：2026 年 4 月 8 日に Ready for のページおよび HP に掲載
移植再開時には改めて報告予定
- 感謝状の贈呈：希望者の方々に肝移植再開時に送付させていただきます
- 報告会：肝移植再開後に報告会として開催を予定しております(現地および Web)。
対象者の皆様には別途通知させていただきます

万が一、お手元に届いていない場合やご不明点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

5. 今後の展望とメッセージ

本プロジェクトは、この最終報告をもちましてひとつの区切りを迎えます。山陰における肝移植の再開という大きな目標については、現在も道半ばにありますが、皆様のご支援によって再開のための土台は確実に築かれました。移植医療の安定的な運用、そして次世代を担う外科医の育成という挑戦に終わりはありません。皆様から託していただいた「命のバトン」をしっかりと繋ぎ、地域医療のさらなる向上に邁進してまいります。プロジェクトの期間は終了いたしますが、私たちの挑戦はここからが本番です。移植再開時には改めて報告をさせていただきます。今後とも、温かく見守っていただければ幸いです。

【本件に関するお問い合わせ先】

島根大学医学部 消化器・総合外科

住所：〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話：0853-20-2232

代表者：日高 匡章

担当事務：岸 隆 Mail: tk.kishi123@med.shimane-u.ac.jp